

# トラック輸送情報（平成14年 6月分）

平成14年 8月30日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：金子、荒木 内線28-315

直通 03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

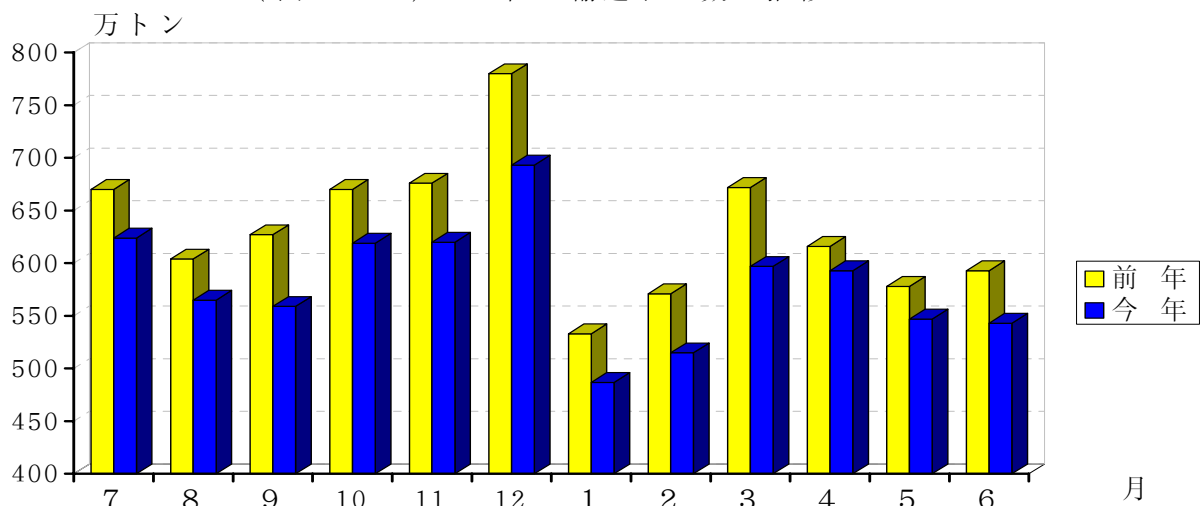
## 1. 特別積合せ貨物

### (1) 本月の輸送状況

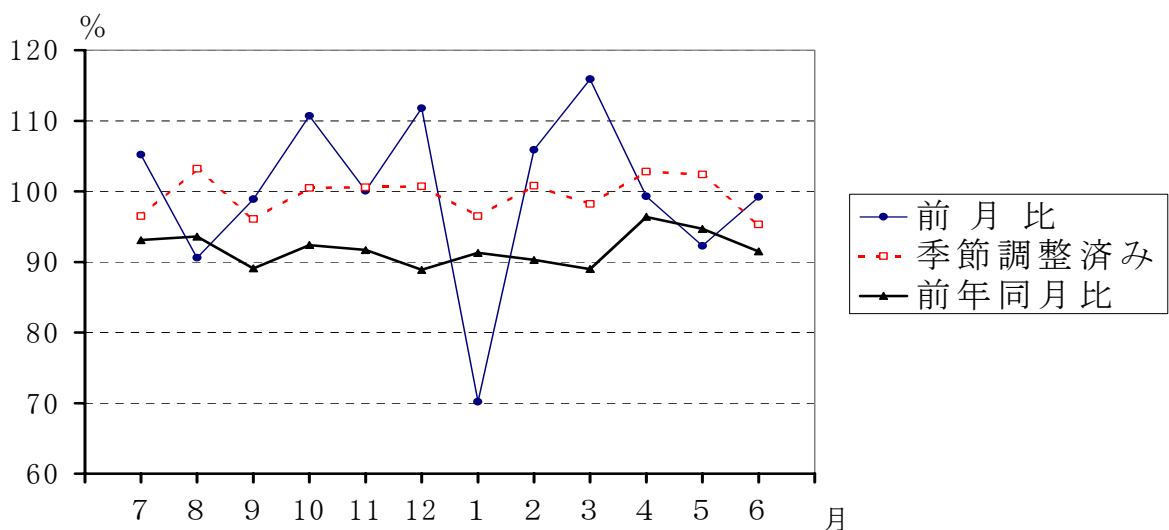
調査対象26社の本月の輸送量は5,430,018トンで、前年同月比 91.5%、前月比 99.2%（季節調整済み95.3%）の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

なお、平均稼働日数は、24.4日、稼働1日当たりの輸送量は222,612トンで、前年同月比 95.7%、前月比 91.9%となった。

（図1-1）26社の輸送トン数の推移



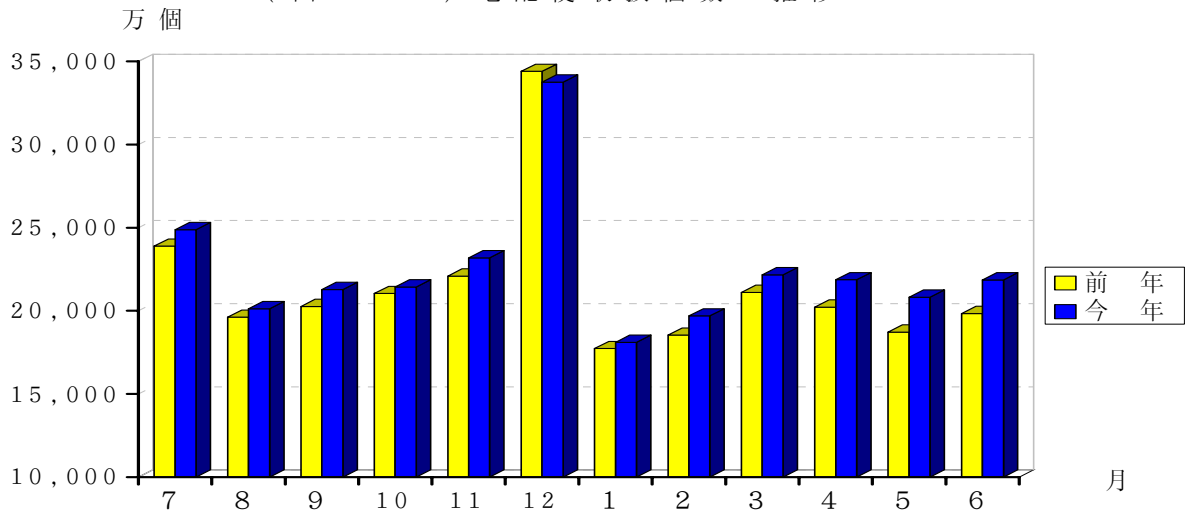
（図1-2）前月比・前月比(季節調整済み)・前年同月比



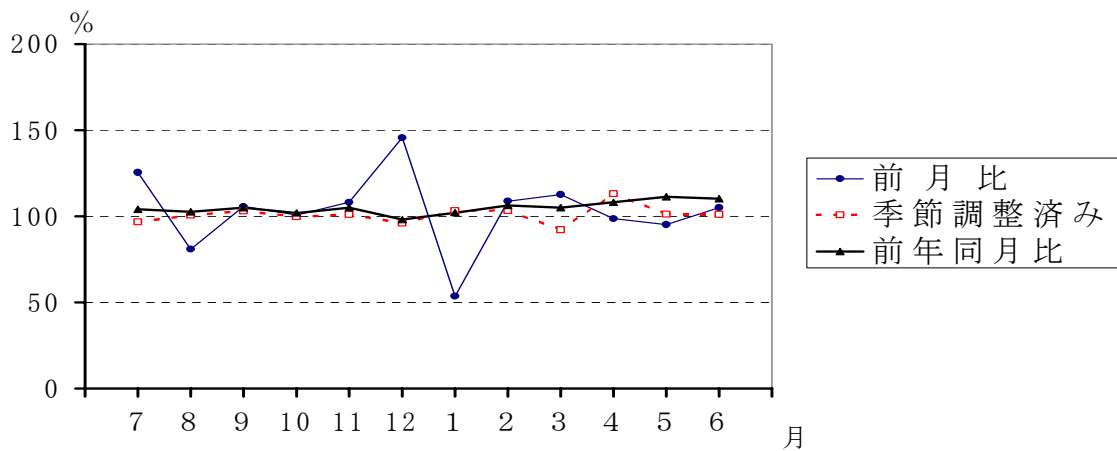
## (2) 宅配便の輸送状況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は218,632,947個であり、前年同月比110.2%、前月比105.0%（季節調整済み101.1%）であった。（図2-1、図2-2参照）

（図2-1）宅配便取扱個数の推移



（図2-2）前月比・前月比（季節調整済み）・前年同月比



## (3) 本月の輸送動向

本月の輸送は、前月と比べ、平均稼働日数は1.8日増加し、稼働1日当たりの輸送量も約2万ト減少したため、前月比91.9%の実績となった。総輸送量についても先月と比べ約4.5万ト減少したため、前月比99.2%の実績となった。宅配便についても約1035万個増加したため、前月比105.0%の実績となった。

前年同月と比べると、平均稼働日数は1.1日減少し、稼働1日当たりの輸送量は約1万ト減少したため、前年同月比95.7%の実績となった。総輸送量についても、約50万ト減少したため、前年同月比91.5%の実績となった。宅配便については、約2019万個増加したため、前年同月比110.2%の実績となった。

## (4) 品目別及び地域別輸送状況

本月の輸送は、大型連休の影響が見られた前月と比べ、やや増加傾向にあった。中でも、農水産品が新潟、東京において、工場・生産地からの貨物増を主な理由として増加している。

前年同月と比べると、全ての品目において減少傾向にあった。中でも、日用品が全国において、工場・生産地及び商社・問屋からの貨物減、不況を主な理由として減少している。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 27社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※増減要因		
	著増	増	変らず	著減					
前月 に 比 べ て	農水産品	1	4	11	1	青果物	新潟、東京	4	
						農産物	九州	4, 8	
	金属製品		2	16		2	家庭用金属製品	愛知	4
								近畿	4
	機械	1	4	12	4	自動車部品、家電、農機具	関東、愛知	4	
						家電、照明器具	大阪	4	
	化学工業品		2	16	4	肥料・飼料	東京	4	
						化学薬品、合成樹脂	新潟、大阪	4	
	繊維工業品		4	13	4	衣料品	関東	4, 8	
						織物	近畿	5	
	食料工業品		5	13	3	製造食品、飲料	関東	4, 8	
						飲料	関東、近畿	4, 5, 8	
	日用品		6	8	7	身廻品、雑貨品	全国	4	
						一般貨物	関東	4	
その他		4	11	6	宅配貨物、カタログ、百貨店	東京	2, 4, 8		
					宅配貨物	関東	4, 5		
前年 同 月 に 比 べ て	農水産品		2	11	4	青果物	中国	4	
						青果物、畜産物	新潟、関東	4, 8, 9	
	金属製品	1	1	12	6	家庭用金属製品	新潟	4, 5, 6, 9	
						電気製品、工具類	近畿、中国	4	
	機械		3	12	6	機械部品	東京、近畿	9	
						自動車部品、家電、電子部	関東	4, 9	
	化学工業品		2	12	8	化成品	関東、近畿	7, 9	
						化学薬品、合成樹脂、石油	関東	4	
	繊維工業品	1	1	12	7		東京、近畿	9	
						織物、衣料品	関東、中部	4	
	食料工業品	1	2	11	7		東京	2, 5, 9	
						加工食品、飲料	関東	4, 9	
	日用品		3	6	11	1	一般貨物、身廻品、雑貨品	新潟、東京、近畿	8, 9
							一般貨物、身廻品、雑貨品	全国	4, 5, 9
その他	1	2	10	8	宅配貨物	新潟、東京、兵庫	2		
						関東	4, 9		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

※増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2. 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 877社 / 調査対象事業者数 1,109社）の輸送量は、前年同月比 97.1%、前月比104.3%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	新 潟	関 東	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	97.1%	97.9%	99.5%	91.0%	96.3%	93.0%	98.2%	99.3%	100.2%	99.0%	102.0%
前 月 比	104.3%	113.6%	102.3%	104.3%	101.8%	99.5%	106.1%	103.5%	105.6%	97.9%	100.3%

### (2) 地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、前月に引き続いて「木材」「砂利・砂・石材」等の土木建築関係の資材の輸送増が見られたため、対前月比113.6%という結果になった。また、対前年同月比は97.9%と引き続き低下している。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに上昇傾向にある。</p>
東北	<p>本月の輸送は、公共事業の減少等による「セメント」、季節的な需要減による「その他の石油製品」等の輸送減が見られたが、さくらんぼ等の農水産物の季節的な輸送増がみられたことから、対前月比102.3%となった。また、対前年同月比は99.5%とわずかではあるが減少した。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降はわずかであるが減少傾向にある。</p>
新潟	<p>本月の輸送は、季節的な輸送増により「野菜・果物」が、また入港船舶が増えたことによる鉱物類の輸送増が見られたことにより、対前月比104.3%と増加した。しかし公共事業が引き続き減少し、また生産調整を行っているための輸送減もあることから、対前年同月比は91.0%と減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともにほぼ横ばい傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、ワールドカップの影響や中元シーズンに入ったことにより、一部品目に輸送の増減が見られたが、全体的に対前月比は101.8%と増加した。しかし対前年同月比は96.3%と厳しい状況が続いている。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、季節的需要により「その他の石油製品」が、出荷量の減少により「野菜・果物」が輸送減となっているが、輸送エリアの拡大や受主増により「その他の窯業品」が、また他の同業者との提携により「金属製品」の輸送増がそれぞれあった。このことにより対前月比99.5%とほぼ横ばいであったが、対前年同月比は93.0%と依然として厳しい状況となっている。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、季節的要因による「野菜・果物」「その他農作物」「食料工業品」の輸送増、「揮発油」「その他化学工業品」の新規顧客先の増加等が影響し、対前月比は106.1%と増加している。しかし、対前年同月比は98.2%と依然として伸び悩んでいる。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
中国	<p>本月の輸送は、飼料の取扱量減少により「畜産品」の輸送減があったが、5月の大型連休の反動による輸送増により、対前月比103.5%の実績となった。また、対前年同月比は99.3%とわずかであるが減少した。今後の輸送見通しは次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
四国	<p>本月の輸送は、季節的な要因により「野菜・果物」の減少が見られたが、中元シーズンに入ったことによる「食料工業品」の輸送増があったことから、対前月比105.6%の実績となった。また、対前年同月比も100.2%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しは、次月はほぼ横ばい、以降はわずかであるが減少傾向にある。</p>
九州	<p>本月の輸送は、季節的及び生産者事情により「野菜・果物」、公共工事の減少に伴い「砂利・砂・石材」「セメント」の輸送量の減少が目立った。このため、対前月比は97.9%の実績となった。また、対前年同月比も99.0%とわずかながら減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向にある。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、台風の襲来等で一部船舶貨物の輸送量が減少したものの、「機械」の県外出荷、たばこ等の「その他農産品」及びロールペーパー等の「紙・パルプ」の需要が増加したことから、対前月比100.3%、対前年同月比102.0%の実績となった。今後の輸送見通しは次月及び以降ともに上昇傾向にある。</p>

## (3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりとまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局											全国計
		北海道	東北	新潟	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄		
1. 穀物	増	0	2	2	0	1	0	0	0	0	0	5	
	減	1	1	3	1	0	0	1	0	2	1	10	
2. 野菜・果物	増	1	2	7	0	0	1	1	0	1	0	13	
	減	0	0	1	1	2	0	0	2	12	0	18	
3. その他の農産品	増	2	0	0	0	0	1	0	0	0	1	4	
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4	
4. 畜産品	増	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0	6	
	減	0	0	0	0	0	0	3	0	1	0	4	
5. 水産品	増	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3	
	減	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2	
6. 木材	増	6	1	3	0	2	0	1	0	2	0	15	
	減	2	1	1	0	0	0	0	1	5	1	11	
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
8. 石炭	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
	減	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	
9. 金属鉱	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	
10. 砂利・砂・石材	増	14	2	0	0	2	0	2	0	2	0	22	
	減	3	1	1	0	0	0	1	0	9	0	15	
11. 工業用非金属鉱物	増	3	1	2	0	0	0	1	0	1	0	8	
	減	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	4	
12. 鉄鋼	増	0	1	0	0	1	1	3	0	6	0	12	
	減	1	1	3	0	2	1	1	1	8	0	18	
13. 非鉄金属	増	1	0	1	0	0	1	1	0	2	0	6	
	減	0	2	0	0	0	0	0	0	2	0	4	
14. 金属製品	増	1	1	0	1	1	1	1	0	0	0	6	
	減	0	0	1	0	2	1	1	0	4	0	9	
15. 機械	増	1	1	0	1	2	1	2	0	3	2	13	
	減	0	0	1	2	2	2	1	0	5	0	13	
16. セメント	増	2	1	3	0	0	0	1	1	2	0	10	
	減	1	3	2	0	0	0	2	1	7	0	16	
17. その他の窯業品	増	2	0	0	0	3	0	0	0	1	0	6	
	減	1	0	1	0	0	0	0	0	5	0	7	

